

よこそうをよりよく知るためのフリーマガジン

プロムナード

2023年

8月号

Vol.364

増量16P

毎月1日発行



特集1 『横浜シルバープラザをご紹介します』

特別インタビュー 『よこそうびとFile #05』 検査部科長 柳田 季洋

New! 『よこそうソシエタメディカ』 腎臓専門医 黒木 亜紀

『よこそうパートナーズ』 ジャパンリリーフ

よこそうニュース 『災害対策委員会より地域の皆様へ』 他

TAKE FREE

連載

Dr.長田の認知症学事始
谷川博士のお薬よもやま話
教えて薬剤師さん

よこそう医療福祉情報局
マイフェイバリットプレイス

横浜シルバープラザをご紹介します

横浜シルバープラザって どんな施設？

横浜シルバープラザは神奈川県第1号の介護老人保健施設として1989年に開設されました。全室個室のユニットケアを導入し、ご利用者のご自宅に近い環境でご入居者一人ひとりの個性や生活リズムを尊重しているのがサービスの特徴です。

常勤介護士の全員が介護福祉士の国家資格を持ち、在宅復帰率は50%を超えています。そして、在宅復帰や在宅療養支援等の指標が特に高い施設のみが認定される「超強化型老健施設」に区内で唯一選ばれ、全国はもとより海外からも多くの福祉関係者が視察に訪れています。

当施設は横浜総病院の関連施設になります。



<http://www.silverplaza.jp/>

*「ユニットケア」とは

ご自宅に近い居住環境でご利用者一人ひとりの個性や生活リズムに沿い、他者との人間関係を築きながら日常生活を営めるようにケアを行うことです。従来の画一的なケアから「個別ケア」を行うために、ご利用者の「個」を尊重した小規模のグループ（ユニット）にわけてケアを行います。



音楽療法士
鳥羽山 美和

ご利用者の音楽の好みと他の専門職の話をもとに音楽の諸活動を通し、ご利用者の心身の活性化を目指します。小集団では発声とご利用者間の交流の促進、個別では気分転換、発声、心身への刺激を主に行っています。



看護師
成瀬 藍

医師と協力してご利用者の医学的管理を行うとともに、医学的知識を活かして適切なケアのあり方を検討します。



薬剤師
大和 潤子

調剤業務や服薬指導、薬の管理などを行います。他職種と協働してご利用者が適切に薬を内服できるように努めています。協力病院である横浜総合病院の薬剤師と連携を取りながら薬に関して医師のサポートをしています。



歯科衛生士
飯盛 由美子

訪問歯科と連携し、ご利用者の口腔状態や義歯のチェック・専門的な口腔ケアを行います。その他に、ご利用者や介護士に口腔ケアの指導を行うこともあります。



管理栄養士
春田 佳代子

ご利用者の栄養状態の維持・向上のため、食事に関するすべてのことをコーディネートします。また、栄養状態を評価し、維持・向上のためのプラン作り、状態に合わせた食形態の設定など他職種と協働して行います。



支援相談員
江原 明子

施設内での相談窓口的な機能を担っています。ご利用者とその人らしく地域で暮らしていくために必要な社会的サポートや、ご家族と施設、ご家族とご利用者といった関係をコーディネートします。ご入所者の受け入れ、日常的な相談、ご家族からの相談にのり、ご利用者をサポートします。



理学療法士
柳沼 里枝

ご利用者の身体機能や目標に合わせて治療計画を立案し、リハビリを提供します。機能訓練や動作練習に加え、他職種と連携し生活リハビリを取り入れながら、基本動作や移動手段の獲得を目指します。



作業療法士
大山 瑞紀

在宅復帰を念頭に、ご利用者が「大切にしている・必要としている生活行為」を再び獲得できるように動作練習だけではなく、代償手段の提供や環境調整などを行い支援します。心と身体の動きを引き出すため、創作活動などの集団リハビリも行なっています。



言語聴覚士
松島 博美

主に「食べる」「言語、コミュニケーション」についてリハビリを提供しています。病院での治療は終了したけれど、引き続き食事や言葉に関する困りごとに対して、機能訓練や環境調整を行うことで生活の質の向上を目指します。



介護福祉士
武士俣 渉

日常的なケアと他の専門職と協働して行う専門的なケアを行います。ご利用者は日常生活に何らかの問題をかかえた高齢者なので、老健で働く職種の中でもっとも数が多く、ご利用者が「自律」した生活ができるようにケアをしています。



介護支援専門員
小島 茜

ご利用者が早期に在宅復帰ができるようにケアプランを作成し、他の専門職と連携を図っています。また、在宅復帰の際には在宅のケアマネジャーと連携し、福祉用具やサービスの提案をします。



多職種連携による チームケア



医師
鮫島 寛次

横浜シルバープラザ施設長
横浜総合病院顧問

東邦大学医学部(S41年卒)
東邦大学大橋病院院長歴任
東邦大学医学部名誉教授
政策医療振興財団理事

医師は、利用者の医学的管理を行います。医師にしかできない診断や治療、利用者の状態像を把握した上での看護職やリハビリ専門職への指示を行います。

鮫島施設長に聞きました

シルバープラザの特徴について

シルバープラザの特徴はユニットタイプ(全個室)を採用し個別ケアを推進したサービスを提供しています。個室タイプという性格を考えると現在の施設規模は職員数を含めて適当だと思います。

当施設は中間施設(病院から退院して帰宅するまでの間のリハビリを行う施設)としての任務を担っています。高齢の利用者の利用率も高いのでそういった場合は特に横浜総合病院が隣接していることで医療連携が充実し、効率よいサービスを提供できることもシルバープラザの特性だと言えます。

鮫島先生おすすめのお店

「AllO(アロ)」

東京都世田谷区玉川1-15-6ライズプラザモール 2F
<http://allo.peace-tokyo.com/>

自宅からほど近い距離にある本格的なフレンチを出すお店です。大好きなゴルフをプレーした後に妻と一緒に掛ける我が家の第二台的存在です。



職員同士でよく登山にも出かけるので私は職場でもずっと登山の話ばかりしています(笑)。

柳田 季洋/Toshihiro Yanagida
検査科長
臨床検査技師

平成18年10月11日入社
趣味 : 登山と猫の飼育
好きな言葉 : 出されたものは全部食べる
好きな食べ物 : カレーメン



診察には欠かせない様々な検査を行う臨床検査技師——
よこそうびと第5回は検査部・柳田季洋科長のインタビューをお送りいたします。



——ご出身について教えてください

生まれも育ちも横浜市栄区です。親子3代ではないのでハマッ子ではないですね。父親は茅ヶ崎、母親は川崎の出身です。

ファミコン世代なので少年時代はゲームばかりやっていたと思います。高校に入りステーキのあさくまというファミレスでアルバイトをし、パン焼きや料理など色々経験しました。

——臨床検査技師を目指すきっかけなどあればお願いします

これといった明確な理由はなかったと思いますが、専門学校に入った当時、自宅マンションの下の階に臨床検査技師の方がいて両親と親しかったせいか、両親から勧められなんとなく臨床検査技師の道を選びました。

技師になりたての頃は今と違い、分からないことをスマホで簡単に調べたりすることができなかったのが現場に出ながらひとつずつ仕事を覚えていったと思います。

——趣味について教えてください。

山登りと猫の飼育ですね。2018年に同僚に誘われ、山の魅力を知ってから現在までにおよそ500以上の山を登り



ました。中でも一番印象に残っているのは飛騨山脈(北アルプス)穂高連峰にあるジャンダルムで頂上から眺める景色は忘れ難いくらい素晴らしかったです。
国内にある3000メートル級の山はいつか全て制覇したいですね。

一人で登ることもあれば、家族や職場の同僚と一緒に登ることもあり、それぞれ異なる楽しみ方をしています。装備としては登山靴はスカルパ、リュックはグレゴリー、ウェアは快適性の高い素材(ゴアテックやオクタなど)を好んで愛用しています。安全性と快適性には気を配ります。

最近では自分の登山記録をYAMAPというアプリで記録したりもしています。山の情報も充実しているのでオススメです。



雲海を背に山頂に望む(仙丈ヶ岳)

インタビュー
こぼれ話



カレーメン(日清食品)

「登山に出かける時の常備飯です。カップラーメンの場合は汁も全て飲まないといけない(山に捨てる事ができないため)のですがカレーメンならその心配は不要なのでオススメです。」

——職場について教えてください

検査部は職員同士仲がよく明るい職場だと思います。職員同士でよく登山にも出かけるので私は職場でもずっと登山の話ばかりしています。

また部署の特性としては男性職員より女性職員の方が多いです。

——柳田科長から見たよこそうびはどんな病院ですか？

一言で言うとアットホームな病院だと思います。

検査部の仕事は他部門とやりとりを行う事が多いので職員同士の雰囲気が良いととても仕事がやりやすいです。

——最後に病院の利用者さんへの一言メッセージをお願いします

検査部は手広く多くの部署と関わっているので院内で検査について分からない事や不安な事などがあった際はスタッフに気軽にお尋ねください。



ジャンダルム山頂にて

柳田科長、本日はお忙しいところありがとうございました

よこそうび——
「一言で言うとアットホームな病院
だと思っています。」





Dr.長田の

認知症学事始

にんちしょうがくごとはじめ

2つの病理所見

アルツハイマー病が原因の認知症を、アルツハイマー型認知症と呼びます。アルツハイマー病の脳には、アミロイドβの細胞外蓄積(老人斑)とリン酸化タウ蛋白の神経細胞内蓄積(神経原線維変化)の2つの特徴的な病理所見が存在します。アミロイドβは、脳内で作られた蛋白質が分解されたもので、健康な人の脳にも存在しますが通常は脳内のゴミとして短期間で分解され脳から排出されます。ところが、アルツハイマー病では毒性の強いアミロイドβが産生されて

排出されずに脳内に凝集して蓄積して老人斑を形成します。この老人斑が引き金になって、神経細胞死が起こり、脳萎縮が進行すると考えられ、「アミロイド仮説」と呼ばれます。

アミロイドβは認知症を発症する20年も前から脳に溜まり始めることが明らかにされています。また、タウ蛋白も、本来は神経細胞の骨組みを作る重要な蛋白質ですが、一旦リン酸化されて糸屑のような塊(神経原線維変化)を形成すると、神経細胞死を起こす悪役に変化します。

「原因」ではなく「結果」?

アミロイドβが溜まって老人斑が形成され、タウ蛋白のリン酸化で神経原線維変化が起こると必ず認知機能が低下する訳ではありません。老人斑や神経原線維変化は、認知機能が保たれて

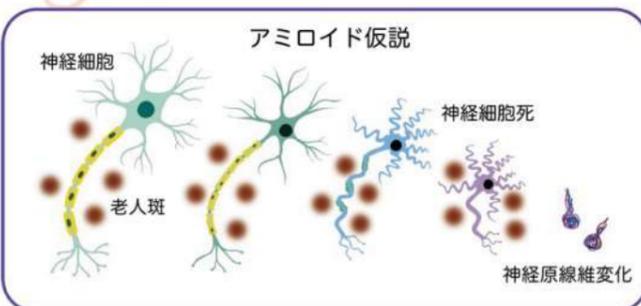
いる人にも見られます。米国の修道女研究(Nun Study)で報告されたシスター・メアリーは、死後の病理解剖では、脳に沢山の老人斑や神経原線維変化が存在しましたが、101歳で亡くなるまで頭脳明晰で認知機能は正常に保たれていました。老人斑や神経原線維変化などの病理所見は、アルツハイマー病の「原因」と言うよりも「結果」を見ている可能性も指摘されています。

研究と新薬開発は進む

かつてはアミロイドβやタウ蛋白の蓄積を確認するには、死後の脳組織を顕微鏡で観察する方法しかありませんでしたが、現在ではPET(ポジトロンCT)を用いた画像診断で

脳内のアミロイドβやタウ蛋白の蓄積量を捉えることが可能になりました。また脳脊髄液中や血液中の微量のアミロイドβやタウ蛋白の変化を測定する研究も進んでいます。

現在は、アミロイドβの産生抑制、排出促進、凝集抑制、タウ蛋白のリン酸化抑制、神経細胞保護など、アミロイド仮説に基づいてアルツハイマー病に対する新薬開発が進められています。凝集したアミロイドβを選択的に標的とするヒトモノクローナル抗体のレカネマブ(Lecanemab)は、脳内のアミロイドβを減少させ、認知機能低下を抑制する効果が明らかになり、7月6日に米国で正式承認されました。



アミロイド仮説

神経細胞

老人斑

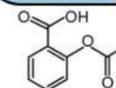
神経細胞死

神経原線維変化

次号連載第十二回
に続きます

お薬にまつわる
あんな話こんな話
そんな話

谷川博士の



お薬よもやま話

薬剤部副部長
谷川 浩司

<連載第5回>

Illustration by Ken Nagata

お薬の行方

■前回の最後に「次回はお薬の効き方について、もう少し細かく見ていきます」と書いたのですが、書いていてまだ全体の説明も終わっていないにもかかわらず「よもやま話」としてはあまりにも内容が濃くなりすぎてしまったことに気がきました。そこでまずは「よもやま話」レベルで全体を説明し切ろうと考え、今回はお薬が効果を示したその後の行方について書いてゆこうと思います。

■さて、お薬は奏効部位に到達したあと受容体やチャネルなどの標的たんぱく質にくっついて(「結合」といいます)直接、又は間接的に効果を示すことは前回述べました。それでは効果を示したあと、そのお薬はどうなるのでしょうか?実は標的たんぱく質への結合の仕方には大きく分けて2種類あります。それは**可逆的結合**と**非可逆的結合**です。またまた難しい用語の登場です。でも大丈夫です。この説明を読めば簡単です。

※標的たんぱく質……お薬が結合することで作用を示すたんぱく質のこと。標的受容体、標的酵素など、お薬がくっつく先を標的〇〇と呼びます。

<可逆的結合>

可逆的結合とは、お薬と標的たんぱく質はいったん結合しますが、ある一定時間経つと離れ離れ(「解離」といいます)になります。つまり結合している間はお薬の効果が現れますが、解離すると効果はなくなります。解離したお薬は血流にのって肝臓へ運ばれ代謝されて服用したお薬とは別のものになったり、腎臓へ運ばれて尿と一緒に体外へ排泄されたりして体内からなくなってしまいます。これがお薬を服用して効果が現れたのち、ある程度時間が経つと効果がなくなってくる仕組みです。多くのお薬は可逆的結合を示します。

<非可逆的結合>

非可逆的結合とは薬物と標的たんぱく質が結合して「もう2度と離れない」状態になることです。つまりお薬が結合している標的たんぱく質が存在している限り、ずっと効果が出ていることとなります。ただし標的たんぱく質もずっと変わらず体内に存在しているわけではありませ

ん。たとえば皆さんの中には「クロピドグレル」という血小板凝集を抑えるお薬を服用している方がおられると思います。クロピドグレルは服用ののち吸収され肝臓で代謝を受けH4と呼ばれる代謝物となります。このH4が血小板の表面にあるADP受容体サブタイプP2Y₁₂というたんぱく質に結合することで血小板が凝集するのを抑えますが、これは非可逆的結合であり、結合したら2度と離れません。ただ血小板にも寿命があり約10日で入れ替わりますので、クロピドグレルの服用をやめると約10日後には完全に効果がなくなるようになります。

<可逆的結合>



<非可逆的結合>



■クロピドグレルの場合はその効果を示すH4に代謝される割合が非常に小さいため、体内に存在するH4の量はほんのわずかです。したがって「2度と離れない結合」の憂き目にあった血小板であふれかえることはなく、「全然血が止まらないよ〜」という事態になることは「通常」はありません。ただここで少し注意したいのは手術等をおこなう予定がある場合です。手術等では出血を伴うことがよくありますが、クロピドグレルを服用していると血小板の凝集を抑えているため、手術等による出血が止まりづらくなることがあります。そのため手術前はクロピドグレルの服用を一時中止することが多いのですが、服用を一時中止するタイミングは血小板の寿命を考えると手術前日では遅いこととなります。手術等を予定されている方は主治医や薬剤師とよく相談して安全な中止期間を設けましょう。

次号も博士のよもやまが続きます





よこそらパートナーズ



当院は数多くの人達の手によって運営されています。
こちらのコーナーではその中でも病院の運営を常に支えてくれているパートナー企業さんをご紹介します。

今月紹介するパートナーは循環バスのドライバーさんたちを派遣して下さっている株式会社ジャパン・リリーフ関東さんです。
多くの患者さん方の送迎を担ってくれているプロのドライバーさんたちをご紹介します。

ドライバーさんご紹介

氏名	山田 運転手
PR	知らない人はいないくらいの大ベテラン！
あざみ野駅循環コース	
優良	運転歴 44年 送迎歴 18年 好きな食べ物 白いご飯 これに勝るものはなし <ひとこと> いつもご利用ありがとうございます。 安全運転を心がけてまいります。
	



氏名	蓬田(よもぎだ) 運転手
PR	運転一筋42年、常に安全運転！
麻生循環コース すすき野循環コース	
優良	運転歴 42年 送迎歴 40年 好きな食べ物 季節の果物 (これからは桃ですね) <ひとこと> バスの利用者には高齢者さんが多いので降車の際はお気を付け下さい。
	



バスを利用される方へ 循環バス利用に際してのお願い

【乗車に際して】

- ・ベビーカーはあらかじめたたんでお持ちください。
- ・車いすでのご利用はできませんのでご了承ください。
- ・雨の日は階段が滑りやすくなっていますのでお気をつけてください。

【乗車されてから】

- ・バスが停車するまではお席から立ち上がらないようお願いいたします。
- ・乗降場以外での乗車を希望される場合はドライバーに見えるよう手を挙げてください。
- ・循環バスに停留所はございません、途中降車をされる際はドライバーにお声がけください。
- ・携帯電話での通話をご遠慮ください。
- ・ヘッドフォン音の音漏れにはご注意ください。

【その他】

- ・道路の混雑状況によりバスの停留場所が多少異なる場合もございます。
- ・バス乗車場付近は終日禁煙となります。

氏名	辰野 運転手
PR	とても優しい性格の優良ドライバーさん！
青葉台直行コース 鶴川駅・奈良北・子供の国コース	
優良	運転歴 42年 送迎歴 6か月 好きな食べ物 肉 <ひとこと> 安全運転に努めてまいります。 よろしく願いいたします。
	



運転風景。ハンドルを持つと仕事の顔。ただし性格は変わらず穏やかで優しいまなごで安心を。



正面玄関左脇に運行表・ルートマップを掲示。奥の棚にはチラシもございます。

循環バス運行表およびルートマップについて

院内正面入口にて配布しておりますのでご利用ください。
病院ホームページでもご覧いただけます。

<https://yokoso.or.jp/guidance/access#link3>



【取材メモ】
ジャパンリリーフさんは患者さんのご自宅と病院をつなぐ大事な役割。特に高齢者の方がご利用になられることもあって通常の送迎バス業務以上にホスピタリティが求められるお仕事です。ある意味特殊な職種にも関わらずこうして今日も安心・安全に運行されています。

欧州腎臓学会議 (腎臓専門医 黒木 亜紀)

European Renal Association Congress

欧州腎臓学会議は米国腎臓学会腎臓週間と並んで腎臓病学の分野では主要な国際学会の一つです。今年は6月15日からイタリア、ミラノ郊外で開催され全世界から約9700名が参加しました。

今回の学会で私は演題を発表する機会をいただき、維持透析患者さんの合併症による経済的負担について報告しました。

学会では病気の原因、進行を抑制する方法、治療法など多岐にわたり議論されます。このような中で患者さんが抱える様々な負担も主要なテーマの一つになっています。各国の腎臓内科医に共通するのは、患者さんの腎機能を守り、機能低下を予防して末期腎臓病に至らないようにする、移植や透析に至った患者さんの健康を保つ、という熱い思いでした。



イタリア・ミラノの街並み

学会を通して注目した点が2つあります。

1つは高齢化社会が世界共通の課題となっていることです。腎機能は年齢と共に低下することが知られています。多くのセッションで高齢者の腎機能の考え方、合併症の問題、治療における留意点などが取り上げられていました。

2つ目は環境問題への取り組みです。透析や移植などの治療方法を環境負荷の視点で分析した発表もありましたし、学会全体が脱プラスチック、ゴミを出さないというコンセプトのもと運営されていました。例として、コロナ禍前まではビニール製だった学会のネームカードホルダーは紙製になり、学会のプログラム、会場案内は基本的に全てウェブベースに変わっていました。

国外の医師の診療に対する考え方を知り、ディスカッションする



会場・ミラノ国際会議場

る機会をいただいたことで私自身の視野が広がりました。

今回の経験を活かして診療を行なっていきたいと考えています。



<https://yokoso.or.jp/centerinfo/renalcenter>

ミラノってどんなところ?

ミラノはイタリア北部にある、首都ローマに次ぐ大都市です。ミラノ・コレクションなどで知られるように古くから繊維・服飾などのファッション産業が盛んです。その他にはドゥオモ広場のミラノ大聖堂。イタリアオペラの最高峰スカラ座。そしてあの有名なレオナルド・ダヴィンチ「最後の晩餐」のあるサンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会など、文化的に最も花開いたルネッサンス期に建てられた有名建築物も数多く残っています。



ドゥオモ広場・ミラノ大聖堂

黒木 亜紀/Aki Kuroki
腎センター副センター長

昭和大学(1989年卒)
日本赤十字社医療センター
昭和大学病院
医学博士

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
日本透析医学会専門医・指導医



カトレヤプラザ伊勢佐木(旧横浜松坂屋前)



病院前の道路を嶮山側に少し歩いたところにある小さな歩道橋。ここからの抜けのいい眺めが意外と気に入ります。夜ここを渡るとき、私の仕事モードがOFFになります。(総務課)

昼の貌



夜の貌



大きなショッピングセンターモールに押され気味の商店街のなかで伊勢佐木町は今も頑張っています。ご年配は青江三奈の「伊勢佐木町ブルース」、若い方には国民的フォークデュオのゆずがストリートライブをしていた聖地として有名です。お店も有名チェーン店と老舗店舗が軒を連ね、華やかさを演出しています。皆さんも是非”イセブラ”してみてくださいはいかがでしょう？(経理課)



よこそ海職員によるよこそ伊勢佐木町のよこそスポットをご紹介します



伊勢♡イセブラ

薬の専門家が
答えます！



教えて！ 薬剤師さん

お薬に関する
エトセトラ

(薬剤師 石井 淳一)

前号より引き続きお薬の期限についてお話いたします！



Q: お薬の使用期限を調べることはできますか？

A: 最近処方されたものでしたら可能です



皆さんはお薬を忘れずに飲まれていますか？
ご自宅にはいつ処方されたお薬が分からない薬剤は残っていませんか？
処方されたお薬をきちんと飲んでいて残っているお薬はないといった方は素晴らしいですね。

薬剤師にご相談ください

一般的にお薬の使用期限は通常、処方された期間でお飲み頂くものです。全てのお薬の期限を調べる事は困難ですが、処方された薬が最近であれば調べる事は可能です。飲み残しを医師へ伝えようであれば薬剤師から医師へ伝え処方日数を減らしてもらうこともできますので、もし残っているお薬がある場合は薬剤師へご相談ください。

また、余ったお薬が全く残っていないことも問題になることがあります。
天候や体調が悪く受診できない時、さらには災害時などに備え、1週間程度のお薬は余るようにしておくことがもしもの備えとして有効です。心配があれば医師に相談し少し多めにもらうことも必要だと思えます。



Q: 症状が出たときに飲むお薬の期限は大丈夫？

A: 通常のお薬より古くなっている可能性が高いです



古いと感じたら受診しましょう

その他に毎日お飲みになるお薬ではなく症状が出た時にお飲み頂くお薬について、例えば痛み止めや熱を下げるお薬、下痢止め、下剤など症状が出た時に飲む様に指示されているお薬は毎日お飲みいただくお薬と比較して古くなってしまっているケースが多いと思います。こういったケースでもお薬を処方された時の状況と、症状が出た時の状態が異なることもありますのでそんな時は余っているお薬を飲んで様子を見るのではなく受診をして頂く様にお願いします。

最後にお子様が処方されたお薬が余り、時間が経過している場合について、子供の成長はとて早くあつと言う間に大きくなっていきます。成長は喜ばしいことですが、お子様に処方されるお薬はその時の体重によって薬剤師がお薬の準備しています。成長によってお薬の量が少なくなってしまうこともよくありますのでお気を付けください。

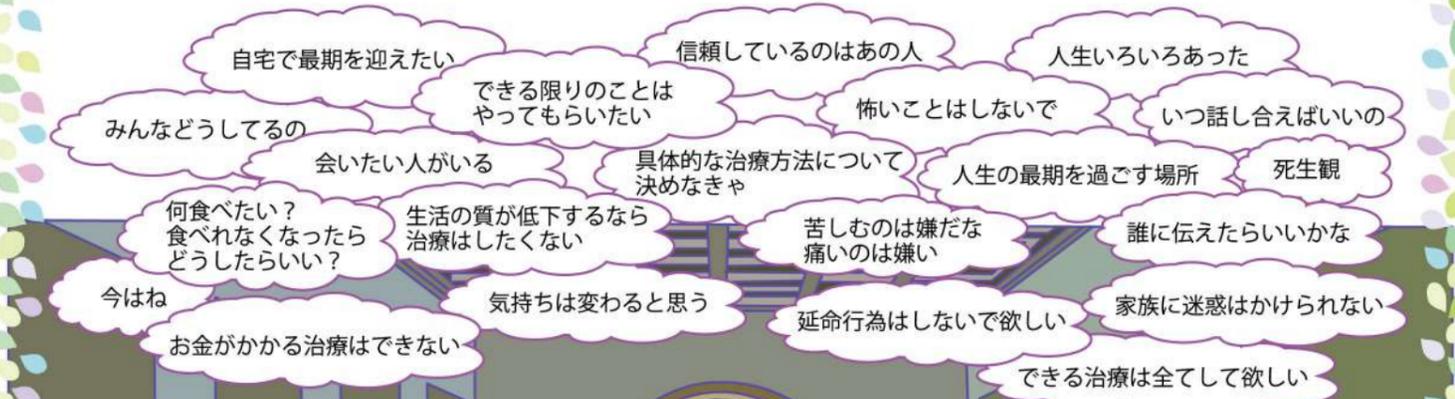
よこそう 医療福祉情報局 No.5

「人生会議」という言葉を
耳にしたことがありますか？

もしものときのために
大切な人と話し合ってみませんか



「人生会議」とは、アドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning : 略称 ACP) の愛称です。もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取り組みです。



もしも手帳とは

横浜市では、人生会議のきっかけとなるよう、医療・ケアについての「もしも手帳」を配布しています。「もしも手帳」は、簡単な3つの質問に答えることで、もしものときにどのような医療やケアを望むのかを前もって話し合い、あなたの思いを伝えるための手帳です。

もしも手帳の使い方

- ① 考えてみる
自分の考えを整理してみる
- ② 話し合ってみる
家族や信頼する人、医療従事者たちと話し合う
- ③ 書き直す
時間の経過や状況の変化によって変わることがあります



横浜総合病院の相談窓口は地域医療総合支援センターです。
お気軽にお声かけください。☎ 045-903-7152 (患者相談室)

参考：厚生労働省 HP (「人生会議」してみませんか) / 横浜市 HP (医療・ケアについての「もしも手帳」)



Text & Illustration by
Masami Honna
(Medical Social Worker)

災害対策委員会より地域の皆様へ

最近全国各地で震度5以上の大きな地震や線状降水帯による土砂災害・大雨が多発しています。今年6月から台風が発生し、今後も台風被害が懸念されています。

当院では自然災害に備え、災害対策委員会を中心に災害時の対応について日頃から話し合いを行っています。

また、横浜市・近隣病院との話し合いを行い、多くの負傷者が発生した場合の各病院の役割を決めています。

予期せぬ大災害が発生した場合、当院は通常の外来診療は中止し、通常医療から災害医療への切替を行います。



1. お薬の内容、アレルギー・副作用歴・かかりつけ病院・歯科医院の名前を記録しておきましょう

自分の飲んでお薬の名前・かかりつけ病院名を全て覚えるのは難しいことですが、災害時に分からないと困ります。

お薬手帳を持ち歩く以外にも、携帯電話やスマートフォンで写真を撮っておいたり、貴重品と共にメモを持ち歩くようにしておきましょう。



2. 急な自然災害に備えて、普段服用している大事なお薬の取扱いに関して、普段から主治医と相談し、対応できるようにしておきましょう。



3. 緊急連絡先の確認をしましょう。

大規模災害時に病院よりご家族に転院や退院をお願いすることがあります。また受診中に怪我をされた場合などご家族に連絡を入れる事があります。ご家族の緊急連絡先が変更になった場合は必ず外来・病棟事務にお伝え下さい。



***防災対策で大切なことは普段から「無理せず」「楽しく」「少しずつ」「継続する」ことです！**

産後ステイが始まりました

当院2東病棟にて「産後ステイ」が始まりました。産後ステイとは赤ちゃんが生まれたばかりのお母さんの「心と身体のケア」を目的としたステイプランです。

不安定になりがちなこの時期にゆっくりと休んでいただき、今後の赤ちゃんとの生活を楽しくいただけるようサポートさせていただきます。

よこそう産後ステイの特徴

総合病院の特徴を活かし、助産師を中心にご希望により理学療法士や管理栄養士、臨床心理士による多職種による専門的なケアを行います。

また、赤ちゃんに診察の必要性があると判断した場合、小児科医の診察を受けることができます。



気楽にいつでも手ぶらでご利用できるようアメニティのご用意もしておりますのでいつでもお声がけ下さい。
一緒に楽しく子育てをしていきませんか？

※詳しくはHPまたは産婦人科病棟直通電話にて

☎ 045-903-7116
病棟直通 24時間対応



感染防止対策のお知らせ

最近暑くなってきたこともあり、院内や循環バス内でマスク未着用の方が増えてきております。

こんな時だからこそ今一度、感染防止対策にご協力をお願いいたします。



Illustration by marutan

人間ドックのご案内

～年に一度の健康チェックを～

私たちは定期的な健診をお受けいただくことで、皆様の健康管理、疾患予防のお役に立ちたいと願っております。ご受診を心よりお待ちしております。

- ・インターネット予約
- ・あざみ野駅より徒歩1分
- ・総合病院との連携



医療法人社団緑成会 横浜総合病院付属
あざみ野健診クリニック

〒225-0011
横浜市青葉区あざみ野2-2-9
あざみ野第3ビル4F
TEL:045-522-6300
FAX:045-903-0777
Web:azamino-clinic.com

横浜総合病院ご案内



循環バス

あざみ野駅、青葉台駅、鶴川駅、奈良北団地、こどもの国駅、麻生、すすき野方面より当院直通バスを運行しております。詳しくは下記HPをご覧ください。

路線バス

東急田園都市線「あざみ野駅」から
「あ27系統すすき野団地」行き
「もみの木台」下車徒歩7分
小田急線「新百合ヶ丘駅」から
「新23系統あざみ野駅」行き
「もみの木台」下車徒歩7分

診察時間

午前	受付	8:00～11:30
	診察	9:00～12:00
午後	受付	1:30～ 4:30
	診察	2:00～ 5:00



【編集後記】

毎日、本当に暑い日が続いていますね。月並みですが、熱中症にはくれぐれも注意を。
水分補給、睡眠、バランスの良い食事などなど、ちょっとしたことですが、普段以上に気を配って体調を崩さないようにしましょう。
豪雨災害で大きな被害を受けた秋田の皆様、復旧にはご苦労も多いと思いますが1日でも早く日常生活を送れる日が来ますようあざみ野より祈っています。

(TOMO KAWAI)

今月号は「よこそうソシエタメディカ」と題して、医師の海外医療学会のレポートなどを紹介する新コーナーが登場しました。
これまでも同様のレポート記事は掲載されておりましたが、こういったタイトルをつけて各記事を体系づけ、よりわかりやすく見やすい誌面づくりを心掛けるよう日々制作しております。
今月号も無事脱稿しましたことを関係各位に厚く御礼申し上げます。

(TAKEHITO OGOMA)

プロムナード VOL.364

発行日:2023年8月1日

制作・編集 医療法人社団 緑成会 横浜総合病院
総務課『プロムナード』編集室

発行人:岩坪新

〒225-0025
横浜市青葉区鉄町2201-5
TEL 045-902-0001